千年の森便り No.237

2023.7.24

ちば千年の森をつくる会

http://toyofusajima.html.xdomain.jp/

代表　福島成樹　　編集　真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

７月 17 日（月祝）天候 晴れ

予想最高気温は千葉で 36℃、朝から快晴で日差しが強く、災害級の暑さの中での活動となりました。熱中症警戒アラートが出ており、外出を控えるようにとの広報もあったため参加者がいるのか心配でしたが、集合場所ではしっかりと常連の皆さんの顔が並んでいてほっとしました。

活動としては、巨木林エリアの柵内とヒメコマツ植栽地などの相対照度調査、湖面から植生調査をするためのボートの試運転、植物調査、ナラ枯れ枯死木の伐採作業などを行いました。今回、一番印象に残っているのは、記事にもあるように島内でヒナノシャクジョウの大群落が見つかったことです。厳しい暑さの中でしたが、参加して良かった！！と思いました。

参加者は、秋元、伊藤、鵜沢、大原、坂本、成沢、福島の会員 7 名と、体験参加の船木さん、合計 8 名でした。ご参加のみなさまお疲れさまでした。

次回の定例活動日は 8 月 20 日（日）、中央博の吹春先生をお迎えして、公開行事として夏のきのこ観察会を行う予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。（福島）

○相対照度調査

照度計を使って相対照度の調査

最初の活動として相対照度調査を行いました。広場に集まり測定機器の操作方法を説明したあと測定箇所を分担し、体験参加の船木さんにも協力していただき 8 名で調査を実施しました。調査時間は 10:00～11:00、調査には照度計 8 台とトランシーバ 4 台を使用しました。

測定箇所は、昨年に引き続き 2014 年まで測定していた巨木林植生保護柵内（以下、柵内）の 25 地点と、千年広場、コナラ更新林の苗畑跡地、ヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地の計 29 地点です。林外の対照とする照度は、障害物がほとんどない吊り橋の上で測定しました。照度は刻々と変化するので、林内と吊り橋の上で同時に測定するためにトランシーバを使用しました。なお、相対照度はバラツキが大きいため、各地点で 4 回の測定を行い、その平均値をその地点の相対照度としました。

表 1 に柵内における各測定点の相対照度を、表 2 に各調査地点（柵内は平均値）の相対照度の経年変化を示しました。柵内の相対照度は、最大が 11.0%、最小が 1.9%、平均が 5.4%となり、昨年と同程度でした。表 2 の経年変化では、柵内以外の 4 か所は年による変化が大きいですが、21～55%と柵内に比べると相対照度が高いことが分かります。現在、島内ではナラ枯れで多数のコナラが枯死しており、一部には林冠が大きく疎開している場所ができています。継続して相対照度を調査することにより、ナラ枯れによる植生の変化と林内の明るさの変化を明らかにできると良いと思っています。（福島）

表１ 巨木林植生保護柵内の相対照度（%）（2023.7.17）

	1	2	3	4	5
1	2.5	5.9	8.6	5.6	5.3
2	2.6	8.9	6.0	5.9	6.1
3	1.9	6.9	6.0	5.6	7.6
4	2.6	8.0	11.0	3.4	6.1
5	2.8	2.5	5.0	3.8	5.2

表２ 島内５地点の着葉期の相対照度の変化

	相対照度（%）						
	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期
測定箇所	2017.9.18	2018.7.16	2019.7.21	2020.7.19	2021.7.18	2022.7.18	2023.7.17
千年広場中央	33.9	21.1	14.1	22.9	15.9	22.5	28.8
コナラ更新林の苗畑	22.4	13.0	-	12.6	18.2	5.0	21.2
コナラ更新林ヒメコマツ	47.1	41.6	28.8	36.0	26.3	33.6	55.0
岬ヒメコマツ	30.7	37.6	40.8	32.5	28.7	13.2	38.2
コナラ伐採地	45.7	30.7	27.9	21.8	29.4		
巨木林柵内	（2014年までの6回の平均は1.9%）					4.1	5.4

コナラ伐採地は20地点の平均値、巨木林柵内は25地点の平均値

○ナラ枯れ枯死木の伐採

ナラ枯れ枯死木

午前中に相対照度調査とボート試運転を行った後、午後に伊藤さん、鵜沢さんの３人で、ナラ枯れ枯死木の伐採作業を行いました。

受け口を作成する前にハンマーで幹を叩きながら腐朽の進行具合を確認し、安全性を確認しながら作業しました。伐採木（コナラ）の幹は比較的まっすぐに伸びていたので、太い枝が伸びている方向から木の重心を想像し、伐倒方向を決めて、受け口を作成しました。受け口はほぼ水平、斜め切りは４５度程度、会合線もうまくつながり、ここまではイイ感じ。追い口を作成し、木が傾き始めたので、あらかじめ決めていた退避場所まで退避行動（木から目を離さず、慌てずに後ずさる）をとりました。そして伐ったコナラは、ゆっくり倒れながら、見事、別のコナラへの「かかり木」となりました（泣）。

かかった木は、上部の枝が伸びる方向に傾いたこともあり、もう少し重心の傾き具合を考慮した受け口（会合線の方向）の作成を考えなければならなったなと反省。その後、チルホールを使用し、かかり木を回転させながら、少しずつ動かしていったのですが、かかったコナラが３つ又状態に株立ちしていて、しっかり挟まった状態に、、、、、、。日中の暑さやワイヤーの重さからくる疲労もあり、これ以上の作業は危険と判断し、今回はここまでとしました。本日の伐採作業は、かかり木１で終了です。

次回は、新たに会で購入したポータブルロープウィンチ（ＰＣＷ３０００）を駆使し、続きの作業を行いたいと思います。（成沢）

○７月の植物と干潟の様子

干潟からホコラ山方向を望む

毎年のことですがダム湖の水面が下がることによって干潟や島が現れます。吊り橋からは水中に隠れていた島部がうっすらと褐色となっているのがわかり、ホテイ岬先端部には完全に干上がった干潟が確認できました。いつもの景観とは異なり、ワクワク感が高まります。干潟からのホコラ山、干潟からの吊り橋は魅力的な景色です。水面から顔を出している杭のような立ち枯れも魅力的です。

干潟にはニホンジカなのかキョンなのか判別はできませんが真新しい足跡が複数残っていました。ホテイ岬最南端と東側の

干潟には足跡が真直ぐに水辺から陸地に向かって延びているのも確認できました。上陸には２ルートあるのかもしれません。昨年の６月 24 日の鹿調査で対岸に向かって逃げるように泳ぐニホンジカがカメラに収められています。この目撃撮影場所はこの南側ルート（A）辺りのようです。何とか上陸時の姿をとらえようとセンサーカメラを南側ルートに向けて半年余りになりますがまだ記録はありません。干潟には大きな二枚貝（カラスガイ？、ドブガイ？）と、赤くなったエビ（スジエビ？、テナガエビ？）がよく目立っていました。流木の枝先にシオカラトンボ（♀）がとまり、水中にはたくさんの小魚が群れていました。岸辺にはクリの木が緑色のイガを枝先に沢山付け、モミの枝にはウメノキゴケ？がびっしりと付いていました。干潟の先端からでもよく確認できたのはゴンズイの赤い実です。また、鹿の上陸ポイントを探していた折、ヒナノシャクジョウを発見しました。とても幸運なことで心ときめきました。

干潟に延びる足跡（A）

カラスガイ？ドブガイ？

スジエビ？テナガエビ？

シオカラトンボ♀

クリ

ウメノキゴケ？

ゴンズイ

ヒナノシャクジョウ

ヒナノシャクジョウ拡大

アキノタムラソウ

ムラサキシキブ

ヤマユリ

オケラ

チゴユリ

サルトリイバラ

コバノガマズミ

ツチアケビ

トサノクロムヨウラン

ヒダを輝かせていたきのこ

コナラ伐採地は６月に比べて興味を引く植物が増えてきています。アキノタムラソウの株は少ないですが咲き始めました。先月同様ムラサキシキブは頭上で咲いています。ヤマユリは散り始めた株もありますが強い芳香と

大きな花で夏の主役となっています。１０個の蕾をつけた株が最多でした。細い籠状の苞に覆われた蕾を沢山付けたオケラは遠目からでは目立たないですが生き生きとした元気な株になっています。チゴユリ、サルトリイバラ、コバノガマズミは実をつけ、リンドウの株も順調に大きくなってきています。秋が楽しみです。たまたまなのでしょうか、コナラ伐採地の植物はみな勢いよく成長しているように思えました。

千年広場の脇にウインナーのように太くて『ずんぐりむっくり』な赤い実をつけたツチアケビがひと際目立っていました。今年のツチアケビの生育状況はとても良好です。株数もあまり減らず、熟した実が多数ついていました。そのわきには細い茶褐色をしたトサノクロムヨウランが数株あり、３株咲いていましが花弁先端部の鮮やかな紫色はうっすらとしか確認できませんでした。コナラ伐採処理木にはラッパ状の淡いクリーム色のきのこがあり、傘に日が射し込んで、ヒダが輝いて見えました。（秋元）

○ヒナノシャクジョウ

ヒナノシャクジョウ

秋元さんがヒナノシャクジョウの群落を発見し、福島さんを現地に案内するというので、同行して見せてもらいました。場所は島の最南端、ほてい岬の水際一帯です。

ヒナノシャクジョウはヒナノシャクジョウ科ヒナノシャクジョウ属の腐生植物で千葉県のレッドリストでは最重要保護生物（A ランク）の希少植物です。

最初に見た時は 50 株位の群落かと思いましたが、観察の範囲を広げると次々に見つかるので 100 株？いや 150 株と次第にふくれ上がり、最終的には 200 株近くあるだろうと意見がまとまりました。県内では一番の大群落ではないでしょうか。数は多くても、何しろ小さな花ですから遠目にはポップコーンの小片が地面に落ちているような物で、屈み込んでしっかり見ないと花とは思えません。こんな微細なものをよく見つけたものだと秋元さんの眼力に感心します。

錫杖とは修行者が行脚（あんぎゃ）にあたって携える杖（つえ）の事で、それを雛が持つとすれば小さいのも当然です。なお、私は似た名前で同様に腐生の生き方をするシャクジョウソウも同じ仲間と思っていましたが、こちらはツツジ科で、縁遠い関係の様です。

また、ヒナノシャクジョウの有る所には珍奇なホンゴウソウも付き物と言われているので、３人で念入りに探しましたが発見できませんでした。（坂本）

○タイミンタチバナを確認

タイミンタチバナを撮影する秋元さん

秋元さんが発見したヒナノシャクジョウの群生を見に行く時に、ホテイ岬に向かう歩道の横に高さ１ｍ くらいのタイミンタチバナを確認しました。千葉県以西に分布する暖地の植物で、豊英島では今回が初めての確認です。（福島）

○アオダイショウ

クサアジサイ

ヒナノシャクジョウを探しに島の北岸の斜面を歩いている時、1mくらいのアオダイショウを見つけました。写真を撮ろうとしましたが間に合わず、すぐに落ち葉の中に隠れてしまいました。水分が多い崖の斜面にはクサアジサイが咲いていました（福島）

○センサーカメラの動物たち

ハクビシンとアナグマの記録が多いです。ニホンジカの記録は今回も２回と少なくなっています。ＣＡＭ２にはニホンジカとキョンが接近する記録がありました。

設置期間：５月２１日から６月１８日まで

日数は確認した日数です。同じ日に複数回記録されても１日としています。（秋元）

コジュケイ

ニホンザル

アナグマ

ニホンジカとキョン

タヌキ

テン

アライグマ

ＣＡＭ１：吊橋着岸点付近

ハクビシン or テン	１０日	夜間	タヌキ	１日	夜間
アナグマ	１２日	夜間	アライグマ	２日	夜間
キョン	２日	昼間・夜間	ニホンザル	１日	昼間
コジュケイ	１日	昼間	不明	３日	夜間

ＣＡＭ２：ホテイ岬への分岐点付近

ニホンジカ	２日	夜間	テン	１日	夜間
キョン	３日	夜間	不明	１日	夜間

ＣＡＭ３：ホテイ岬先端付近

カケス	１日	昼間

動画はちば千年の森をつくる会の YouTube チャンネルへ https://www.youtube.com/channel/UCnsPhVPxFKjs1zvAxHPDj2g

○一所懸命と一生懸命

植物の種は風や鳥などの動物に運ばれますが、どこに運ばれるかは運任せです。その植物の生育に適した場所に着地できる確率は非常に少ないだろうと思います。

写真のミツバアケビは事もあろうに、コナラの切り株のしかも地上から 60 センチ以上の高さで芽生えていました。根が地面に届くまでは乾燥との戦いになると思います。最適地では無くても植物はその場から逃げられず、懸命に生きるしか選択の余地が無いので一所懸命です。

一方、色々選択の範囲が広い人間はそれだけ悩みも多いものですから、失敗があります。先人は脇見をせず、植物のように与えられた立場で一生懸命に生きるのが大事といいます（坂本）

ミツバアケビの芽生え

スギの芽生え

ヒノキの芽生え

モミの芽生え

○体験参加の船木さんから感想をいただきました

「千年の森」1000 年といえば 10 世代以上先の事を想い付けられた名前にまず共感を覚えました。ネイティブインディアンも何世代も先の事を想いながら「この木を切るべきか？どうすべきか？」と話し合いながら事を決めていたようです。そんな同じような想いを「千年の森の会」に感じました。現場は無風に近い状態でしたがとても心地よい風が吹いていました。

チェーンソーのメンテナンスをする船木さん

会員の皆様も初めて出会った感じがせず、直ぐに打ち解け合う事が出来ました。言葉で事細かく話したつもりはないけど、何か繋がっている感覚です。

現場の作業としては、相対照度調査を行いました。前から光の強さと自然界そこに住む生き物の色取りの関係性に興味があった自分としては面白いものでした。それで、周りが湖に囲まれて突起している島なので光が下からも反射するので、多彩で珍しい植物が在るのかもしれないな？と想像してしまいました。

とても実りの在る 1 日でした、福島会長さんを始め会員の皆さま、ありがとう御座いました。次回のキノコの会も参加させて頂きたく思います。宜しくお願い致します。（船木さん）

○植生調査用ボートの試運転

湖面からの植物調査のためにかなり前（10 年前くらい？）に購入し、広場の横に置いてあった手漕ぎボートですが、厳しい暑さの中でちょっと水遊びがしたくなった…という勢いでホテイ岬まで運び、ボートが浸水しないかどうかの確認を行いました。湖面に浮かべたところ浸水などの不具合はなく、当初の目的どおり湖面からの植物調査ができそうなことが分かりました。ボートでしか行けない豊英島の崖の斜面、どんな植物が発見できるかは今後のお楽しみです。（福島）

お知らせ

○次回の定例活動は８月 20 日（日）です。

中央博の吹春先生をお迎えして、公開行事として夏のきのこ観察会を開催する予定です。集合場所は県民の森事務所下の駐車場、集合時間は９時 30 分です。いつもとは集合場所が異なりますのでご注意ください。

熱中症対策、ヤマビル、ダニ対策、ヘルメット着用を忘れずに。